

| | | | | | |
|-------------------------|-----|-------|--------------|-----|------|
| 基礎〈基礎〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 基礎演習Ⅰ | PC | 11201 | I | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 科目と関係のある実務経験 | | |
| 石島 多恵／森 晴美／中園 佐恵子／渋谷 美智 | 必修 | 1 | | | |

授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を養う。

授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。大学の授業で必要なこと、そして卒業後社会人として役立つことなどを身に着けていく。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、人間関係を築いて欲しい。

授業計画

- (1)オリエンテーション(大学生としての姿勢)
(2)言語1
- (1)言語2
(2)オリエンテーション(本学の学生としての姿勢)
- 図書館案内
- (1)言語3
(2)クラスでの自己紹介
- (1)言語4
(2)授業の受け方
- (1)社会1
(2)学生生活(学生相談)
- (1)社会2
(2)学生生活(課外活動1)
- (1)社会3
(2)学生生活(課外活動2)
- (1)社会4
(2)理解と表現(作文など)
- (1)数学1
(2)理解と表現(比較分析)
- (1)数学2
(2)リサーチの方法(情報の集め方)
- (1)数学3
(2)リサーチの方法(レポートの作成)

- (1)数学4
(2)簡単なプレゼンテーション
- (1)確認試験1
(2)マナー
- (1)確認試験2
(2)スタディスキル確認演習

授業の方法

演習形式

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト

一般常識リメディアルテキスト（育仲社）
3訂 大学 学びのことはじめ～初年次セミナーワークブック（ナカニシヤ出版）

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上をとらなければ不合格とする。欠席1回につき合格点は1点上がる。eラーニングを課題とし、実力診断テスト10クリアすることとする。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務j課前掲示板を確認のこと。

| | | | | | |
|--------------------------------|-----|-------|--------------|-----|------|
| 基礎〈基礎〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 基礎演習Ⅱ | ET | 11205 | I | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 科目と関係のある実務経験 | | |
| 堀 正人／佐伯 瑠璃子／吉野 美智子／酒井 新一郎／有村 理 | 必修 | 1 | | | |

授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を養う。

授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、しっかりと人間関係を築いて欲しい。

授業計画

- (1)言語1
(2)言語活動(PCの使用実践)
- (1)言語2
(2)言語活動
- (1)言語3
(2)言語活動
- (1)言語4
(2)共同作業
- (1)社会1
(2)共同作業
- (1)社会2
(2)言語活動(PC使用実践)
- (1)社会3
(2)言語活動
- (1)社会4
(2)言語活動
- (1)数学1
(2)言語活動
- (1)数学2
(2)言語活動
- (1)数学3
(2)言語活動
- (1)数学4
(2)言語活動(合唱練習)

- (1)確認試験1
(2)言語活動(ディスカッション1)
- (1)確認試験2
(2)言語活動(ディスカッション2)
- (1)確認試験3
(2)言語活動(PC使用実践)

授業の方法

演習形式

準備学修

テキストでしっかりと、予習・復習すること。eラーニングを活用すること。準備学習には60時間以上かけること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト

一般常識リメディアルテキスト（育仲社）

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上を盗らなければ不合格とする。欠席1回につき、合格点を1点上げる。eラーニングを課題とし、指定された箇所まで進んでいなければ単位を認めない。教学カルテも評価対象とする。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

| | | | | | |
|-------------------------|-----|-------|--------------|-----|------|
| 基礎〈基礎〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 基礎演習Ⅱ | PC | 11205 | I | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 科目と関係のある実務経験 | | |
| 石島 多恵／森 晴美／中園 佐恵子／渋谷 美智 | 必修 | 1 | | | |

授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学に必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を養う。

授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。大学の授業で必要なこと、そして卒業後社会人として役立つことなどを身に付けていく。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、しっかりと人間関係を築いて欲しい。

授業計画

1. (1)言語1
(2)オリエンテーション
2. (1)言語2
(2)資料の探し方(情報検索)
3. (1)言語3
(2)レポートの書き方1
4. (1)言語4
(2)レポートの書き方2
5. (1)社会1
(2)レポートの書き方3
6. (1)社会2
(2)プレゼンテーションの方法1
7. (1)社会3
(2)プレゼンテーションの方法2
8. (1)社会4
(2)プレゼンテーション1(個人発表)
9. (1)数学1
(2)プレゼンテーション2(個人発表)
10. (1)数学2
(2)プレゼンテーション3(個人発表)
11. (1)数学3
(2)プレゼンテーション4(個人発表)
12. (1)数学4

(2)ディスカッションの進め方(個人発表)

13. (1)確認試験1
(2)ディスカッション1
14. (1)確認試験2
(2)ディスカッション2
15. (1)確認試験3
(2)アカデミックスキル確認演習

授業の方法

演習形式

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト

一般常識リメディアルテキスト(育伸社)
3訂 大学 学びのことはじめ～初年次セミナーワークブック(ナカニシヤ出版)

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上を盗らなければ不合格とする。欠席1回につき、合格点を1点上げる。eラーニングを課題とし、実力診断テスト20クリアをすること。教学カルテも評価対象とする。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

| | | | | | |
|--------|-----|-------|--------------|-----|------|
| 基礎〈基礎〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 海星学Ⅰ | | 11206 | Ⅱ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 科目と関係のある実務経験 | | |
| 各学科教員 | 必修 | 1 | | | |

授業の到達目標

神戸海星女子学院大学の建学の精神や歴史についての理解し、本学の学生としての自覚を深める。人格的素養としてのKAISEIパーソナリティの項目についての学びを通して、各自の考えをもち、内面的に自らを磨く。それに並行しキャリアプログラムと合わせ、自身のキャリアデザインを築いていく。

授業の概要

KAISEIパーソナリティ「K・A・I・S・E・I」の6つの言葉をグループでの討論や研究を通して身につける。具体的にはコミュニケーションを養いながら、他者と協力する力、チームでプレゼンテーションを作り上げ、それを発信する力をつけていく。それと並行して行われるキャリア教育のプログラムから社会で働くこと・社会との関係について考え、自身の将来に意識を向けていく。授業は授業内容に合わせて、学年全体、学科別、またはクラス別に行う。

授業計画

1. ポートフォリオ(学生カルテ)
2. 海星の歴史と建学の精神
3. KAISEIパーソナリティと社会人基礎力
4. キャリアプログラム1「社会を知る」年金制度
5. キャリアプログラム2「社会で働く」とは
6. キャリアプログラム3「職種・業界」を学ぶ
7. キャリアプログラム4キャリアを考える
8. 「K:思いやり」人との共感
9. 「A:自律」これまでの自己の歴史をとおして
10. 「I:知性」耳を傾け、自らを考える
11. 「S:奉仕」他者と自己との関係
12. 「E:倫理」現代の日本社会を考える
13. 「I:国際性」ポータレスの世界 前に踏み出す力
14. 海星パーソナリティの理解と自分の振り返り
15. ポートフォリオ(学生カルテ)

授業の方法

講義または個人作業・協同作業、グループディスカッション、プレ

ゼンテーションなど授業によってさまざまな形で行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

- ①各教員から課題が与えられる。フィールドバックの方法は教員によって異なる。
- ②平常点40%、定期試験30% eラーニング30%

欠席について

欠席1回につき、3点の減点とする。

テキスト

プリント使用

留意事項

eラーニングを課題とし、指定数を完了させること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

| | | | | | | |
|------------------|-----|----|--------------|------|-----|------|
| 専門分野科目〈心理・臨床・発達〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 心理学文献講読 1 | | | 17385 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 科目と関係のある実務経験 | | | |
| 中園 佐恵子 | 選択 | 2 | 臨床心理士、公認心理師 | | | |

授業の到達目標

心理学研究をすすめるうえで基礎となる幅広い分野の実験論文や研究レビューの論文について、国内の文献を原典に当たりながら、読解をすすめてゆく。心理学的な視点で現象をみてゆく基本的な方法の習得と同時に、研究をすすめるうえでの文献参照および論文展開の方法についても同時に学んでゆく。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を目指す。

授業の概要

子どもの心理的発達、母親の育児、子どもの行動などについて、いくつかの論文を購読する。学術論文には、決められた構造がある。本講義では、心理学の学術論文を実際読み、心理学における研究とはどんなものかを理解することを目的とする。指示された論文の箇所を購読し、授業中に議論を行う。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 学術論文の構造
3. 子どもの発達に関する研究論文の購読(1)
4. 子どもの発達に関する研究論文の購読(2)
5. 子どもの発達に関する研究論文の購読(3)
6. 母親の育児に関する研究論文の購読(1)
7. 母親の育児に関する研究論文の購読(2)
8. 母親の育児に関する研究論文の購読(3)
9. 子どもの行動に関する研究論文の購読(1)
10. 子どもの行動に関する研究論文の購読(2)
11. 子どもの行動に関する研究論文の購読(3)
12. 子どもの行動に関する研究論文の購読(4)
13. 子どもの行動に関する研究論文の購読(5)
14. 子どもの行動に関する研究論文の購読(6)
15. 子どもの行動に関する研究論文の購読(7)

授業の方法

論文を読み、それについて授業中に小レポートを作成する。簡単な議論も行う。

準備学修

予習・復習を毎日30分行う。

課題・評価方法

議論後、担当教員によるフィードバックを行う。
平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内の規定に従う。

テキスト

適宜配布する。

参考図書

適宜紹介する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

| | | | | | | |
|------------------|-----|----|--------------|------|-----|------|
| 専門分野科目〈こどもの生活世界〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 生活文化概論 | | | 17405 | I | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 科目と関係のある実務経験 | | | |
| 渋谷 美智 | 選択 | 2 | 公立保育所保育士 | | | |

授業の到達目標

子どもの生活は、遊びそのものであり、子どもの人格は遊びを通して形成されるものであるとも言える。日本は四季に富み、四季にまつわる様々な子どもを取り巻く記念日・行事がある。この素晴らしい日本の文化を後世に伝えていくことの重要性を理解し、子どもの生活文化の様々な側面を学ぶことを目的とする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を考える。

授業の概要

現代社会に生きる子どもたちの生活や文化に焦点をあて、そこに生きる子どもたちの諸相を見ていく。体験的学習を織り交ぜ、学生が自らの体験を通して、子ども文化のイメージがもてるようにする。

授業計画

1. 授業の目的 生活科を踏まえて考える生活文化概論
2. 子ども文化の意義、定義とその構造
3. 子どもを取り巻く生活環境の変化
4. 子どもを取り巻く生活環境について
5. 現代の子どもたちの遊びと生活
6. 集団遊びの重要性(室内)
7. 集団遊びの重要性(戸外)
8. 自然とのかかわりについて
9. 自然の中での遊びの重要性
10. 地域、公共物とのかかわりについて
11. 児童文化財について
12. 伝承遊びについて
13. 季節の遊びについて(お正月)
14. 1年を通して、季節の子どもの文化と遊び
15. まとめ・定期試験

授業の方法

講義・演習・実践により進める。

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法

レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

必要書類については、随時プリントを配布する。

参考図書

子どもとあそび 仙田満著 岩波新書
児童文化 皆川美恵子、武田京子著 ななみ書房
子どもに伝えたい年中行事・記念日 萌文書林

留意事項

実践を多く取り入れるため、授業計画についてはかなり変更があるので、教学課前のボードを確認しておくこと。

教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

| | | | | | |
|-------------------|-----|-------|--------------|-----|------|
| 専門分野科目〈こどもの生活世界〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 教育相談(カウンセリング)を含む) | 教職小 | 17497 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 科目と関係のある実務経験 | | |
| 濱田 誠二郎 | 選択 | 2 | 臨床心理士、公立小教員 | | |

授業の到達目標

小中高の児童・生徒が自己理解を深め、さらに他者受容へとつなぐ受講生に子どもの心理的な特徴や課題を引き出し支援する基礎的な知識と技術を身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティーのK(思いやり)、I(知性)、S(奉仕)をめざす。

授業の概要

学校園における教育相談の意義、実態、課題について知り、チームで対応できる必要性を理解する

授業計画

1. 学校での教育相談を学ぶにあたってその意義を理解する。
2. 学校独自の課題の把握の必要性を学ぶ。
3. 傾聴、共感など学校におけるカウンセリングキーワードについて知る。
4. カウンセリングマインド等教育相談に必要な基本を体験する。
5. 学校でのいじめで、児童・生徒のシグナルや早期発見方法を理解する。
6. 個々の問題行動の本質理解に必要なカウンセリングマインドを生かしたコミュニケーションを体験する。
7. カウンセリングを通じて自己理解、他者受容する技術について知る。
8. 気持ちの良いクラスづくりには欠かせない相互受容の大切さを理解する。
9. 学級内を明るく気持ちの良い雰囲気にするための心理教育を体験する。
10. 非行・問題行動の善後策としての保護者への対応の仕方を理解する。
11. 学級崩壊が生じたときの教育相談としての役割を理解してその教育技術について学ぶ。
12. 学校で虐待を発見する手立て、確認した後の動きや支援の在り方を学ぶ。
13. 児童・生徒の発達課題を学び、保護者相談に生かせるように事例から学ぶ。
14. 不登校などの問題を一人が抱え込むことがないように校内体制の整備計画について学ぶ。
15. 学校だけでは支援しきれない事案に備えて地域の医療、福祉等専

門職との連携の必要性を理解する。
講義の後試験を実施

授業の方法

講義を主とするが、双方向の討議もとり入れて受講者が主体的に参加できる授業形式もとり入れる。

準備学修

子どもに関する社会問題等、自分の生活経験から判断するだけではなく、複数の視点で考える習慣を身につける。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

必要な場合授業時に指示する

参考図書

授業時に紹介する

留意事項

本授業は、教育現場では誰もが直面する課題を数多く取り上げるので、授業後に自分の考えを持つことが大切である。

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

| | | | | | |
|---------------|-----|-------|--------------|-----|------|
| 関連科目〈こども関連科目〉 | クラス | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 子育て支援と地域社会 | | 17501 | Ⅲ | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 科目と関係のある実務経験 | | |
| 渋谷 美智 | 選択 | 2 | 公立保育所保育士 | | |

授業の到達目標

子育て支援とは何か。子育て支援に対する保育者の役割がこれまでになく明確化される中で、幼稚園や保育所はどのような子育て支援ができるのか、保育所や地域社会での子育て支援に積極的に取り組んでいける実践力のある教諭、保育士をめざす。このクラスではKAISEIパーソナリティーのK(思いやり)とS(奉仕)を考え、I(知性)を養います。

授業の概要

子育てを社会全体で支える「子ども・子育て支援新制度」がスタートし、幼稚園・保育所・地域で子育て支援が盛んに行われている状況の中、子育て支援とは何かを考え、保育者を目ざしている学生が、地域社会で取り組まれている様々な子育て支援の実状を知り、なぜ子育て支援が必要なのか、親子が求めている支援とは何かを考え、親子が育ちあうような子育て支援のあり方を学習する。また、子育て支援の実践の場にも積極的に参加し体験する。

授業計画

1. 子育て支援とは何か。(DVD視聴「子育て支援とは」)
2. 子育て支援の意義(1)
3. 子育て支援の意義(2)
4. 地域子育て支援センターの役割
5. 子育て支援の基本的姿勢と基本的技術
6. 地域子育て支援事業拠点における支援
7. 地域社会での子育て支援の取り組みへの見学と参加(1)
8. 地域社会での子育て支援の取り組みへの見学と参加(2)
9. 地域社会での子育て支援の取り組みへの見学と参加(3)
10. 幼稚園での子育て支援の取り組み
11. 保育所での子育て支援の取り組み 保育所の子育て支援の実態
12. 家庭の役割、親子が求めている支援とは
13. 子育ての変化と子育て支援の必要性
14. 園内、園外との連携と社会資源 まとめ
15. 振り返り 試験

授業の方法

講義と演習を中心とし、実際体験によって理解を深める。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

必要資料については、随時プリントを配布する。

参考図書

子育ての変貌と次世代育成支援 原田正文著
世界に学ぼう！子育て支援 汐見稔幸著
地域で子育て 渡辺頭一郎編著
あそびうた大全集 永岡書店

留意事項

実際の支援の様子を見学・参加するフィールドワークを多く取り入れ、子育て支援の理解を深める。フィールドワークが多いので、授業計画についてはかなり変更がある為、日程については授業課の前を常に見ておく。受講者は子育て支援に関心のある者。また、灘区の子育て支援事業への参加については、10月第2、第4土曜日に行うので、必ず日程調整できるようにしておくこと。

教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------|-----|----|--------------|------|-----|------|
| 保育内容の研究・環境 | | | 17721 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 科目と関係のある実務経験 | | | |
| 渋谷 美智 | 選択 | 2 | 公立保育所保育士 | | | |

授業の到達目標

近年の社会の変化にともなって、子どもを取り巻く様々な環境も従来とは変わり続けている。この現状をしっかり受け止め、子どもを取り巻く環境のあり方や保育者の役割を理解する。環境が成長過程に影響することが理解でき、その時期にふさわしい環境の構成あるいは環境の取り入れ方が分かるようになる。幼児に影響を与える人的環境としての保育者が大きな存在となることを踏まえ、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)とI(知性)とE(倫理)の育成を目指す。

授業の概要

幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の領域「環境」に「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」と述べられている。子どもたちが園内外の「自然・文化・人・もの・事象・文字・記号」などに自ら触れ、生きる力を育む直接的体験を積み重ねられる環境を準備するために、保育者自身が様々な環境に対し興味や関心をもち理解し、子どもの主体性を引き出す為にどのような環境づくりをしていけばいいのか、保育者自身も常に主体性を持って環境について学ぶ。

授業計画

1. 保育と「環境」
2. 領域「環境」とは
3. 子どもの育ちと領域「環境」(DVD視聴「子どもを育む保育の環境」)
4. 教室を出ての実際体験とグループワーク
5. 子どもを取り巻く自然環境
6. 生き物とのかかわりにおける子どもの育ち(DVD視聴「動物を知る」)
7. 生き物とのかかわりにおける子どもの育ち
8. 子どもを取り巻く人的環境
9. 子どもを取り巻く物的環境
10. 子どもを取り巻く物的環境
11. 子どもの活動を引き出す保育環境(教室を出て実際体験、DVD 視聴)
12. 子どもの生きる力を育む環境
13. 子どもを取り巻く社会的環境

14. 子どもを守り育てる環境 まとめ

15. まとめ 試験

授業の方法

講義を中心にし、内容に沿ったDVD視聴や事例の中から、グループで話し合ったり意見発表を多く取り入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%。

レポートの提出や振り替えテストなどについて講義の中でフィードバックを行う。

欠席について

欠席数は成績評価に反映する

テキスト

「保育内容 環境 あなたならどうしますか？」岡澤陽子、杉本裕子、平野麻衣子、松山洋平、山下文一、萌文書林

参考図書

幼稚園教育要領解説 フレーベル館

保育所保育指針 日本保育協会

3,4,5歳児が夢中になる実践「造形遊び」 平田智久監修 ナツメ社

あそびうた大全集 永岡書店

留意事項

教室を出ての実際体験等を含むので、授業計画が変更する可能性がある為、授業課前のボードをよく注意して見ておくこと

教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------|-----|----|--------------|------|-----|------|
| 幼児教育指導法 | | | 17725 | Ⅲ | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 科目と関係のある実務経験 | | | |
| 佐原 信江 | 選択 | 2 | 公立幼稚園教員 | | | |

授業の到達目標

幼児期の教育・保育の実践にあたり、基本となる教育内容の再認識と指導実践力の習得をめざす。この科目ではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

授業の概要

幼児期の教育の基本を再認識するとともに、視覚教材(PP)を通して、子どもの生活や遊びとはどのようなものか学ぶ。また教材研究と演習、指導案作成と模擬保育を通して、教師の役割について実践的な習得をめざす。

授業計画

1. 幼児の生活と幼稚園の役割、幼児期の特性
2. 幼児期の教育の基本(人格形成の基礎・環境を通して行う教育)
3. 幼児期の教育の基本(5領域のねらい及び内容・幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿・個々に応じた指導など)
4. 幼児期の教育の基本(教師の役割、教職員間の連携)
5. 教材研究と演習①ペープサート シナリオと教材の作成
6. 教材研究と演習②ペープサート グループで協力し人形劇の完成
7. 教材研究と演習③ペープサート 各グループの演習と評価
8. 保育内容の指導実践①基本的な生活習慣の育成・安全教育
9. 保育内容の指導実践②いろいろな行事、自然を取り入れた活動
10. 保育内容の指導実践③保護者との連携、子育ての支援・預かり保育
11. 保育内容の指導実践④小学校教育との円滑な接続
12. 教材作成と模擬保育①パネルシアターの作成
13. 教材作成と模擬保育②パネルシアターを活用した保育指導案の作成
14. 教材作成と模擬保育③指導案をもとに模擬保育
15. 幼稚園で実際の保育体験と振り返り

授業の方法

実際の園生活の様子を視聴しながら講義を進める。加えて教材作成、実技演習、グループディスカッションなどを通して、実践的な指導力をつけていく。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

①教材作成のもと指導案作成と模擬保育を行い、授業内で教員によるフィードバックを行う。

②平常点30% 演習30% レポート等の提出40%

欠席について

1回の欠席につき3点減点とする。

テキスト

「幼稚園教育要領解説」(文部科学省)「保育所保育指針解説」(厚生労働省)「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(内閣府・文部科学省・厚生労働省)「実践!造形あそび」(ナツメ社)「あそびうた大全集200」(永岡書店)

参考図書

「初等教育資料」文部科学省「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続について」文部科学省「幼児教育じほう」全国公立幼稚園長会

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------|-----|----|--------------|------|-----|------|
| 乳児保育 I | | | 17778 | I | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 科目と関係のある実務経験 | | | |
| 渋谷 美智 | 選択 | 2 | 公立保育所保育士 | | | |

授業の到達目標

乳児期（3歳未満児）の発育・発達と保育について学び、保育所や乳児院等における乳児保育の現状と課題についても理解する。なお健全やかな成長を支えるための生活と遊びなど乳児保育の理論や知識・技術の具体的な事例を通して実践力を身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)とI(知性)E(倫理)を考える。

授業の概要

わが国における乳児保育の歴史の変遷と保育所・乳児院・家庭の現状を把握しながら、保育所や乳児院の果たす役割、乳児保育を担当する保育者としての役割を自覚する。また、乳児を集団で保育することについて、保育現場での具体的な課題、いわゆる保育環境や長時間保育での乳児の生活の仕方など援助の実態を理解し、乳児の保育にあたる保育者としての専門的な能力を身につけられるようにする。

授業計画

1. 乳児保育とは(DVD視聴「乳幼児の発達と保育 0歳児」)
2. 乳児保育の理念と歴史の変遷
3. 乳児の保育と思春期への育ち
4. 愛されて育つということの意味(DVD視聴「アタッチメント関係」)
5. 乳児期の発達と保育内容(DVD視聴「乳児の成長記録」)
6. 乳児期の発達と保育内容(DVD視聴「乳児の成長記録」)
7. 乳児の環境と人間関係(DVD視聴「環境構成」)
8. 乳児保育の実態(教室を出て実体験)
9. 乳児期の生活と保育
10. 保育所における乳児保育
11. 保育所以外の施設における乳児保育
12. 乳児期の保育課程と指導計画
13. 地域における子育て支援
14. 乳児期における連携・協同 まとめ
15. まとめ 試験

授業の方法

講義と演習を中心とし、内容に沿ったDVD視聴を取り入れたり、実

際体験をする。

準備学修

Webで確認すること。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%
レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

新時代の保育双書 乳児保育第3版 (株)みらい 大橋貴美子編

参考図書

乳児保育の基本 責任編集 汐見稔幸・小西行郎・榊原洋一 フレーベル館
保育の内容・方法を知る 乳児保育〔新版〕 増田まゆみ編著 北大路書房
保育所保育指針 日本保育協会
乳児の生活と保育 ななみ書房
あそびうた大全集 永岡書店

留意事項

教室を出ての実体験等を含むため、授業計画の変更もある。授業課前のボードをよく注意して見ておくこと。

教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
|--------------|-----|----|--------------|------|-----|------|
| 障害児保育 | | | 17782 | II | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 科目と関係のある実務経験 | | | |
| 中園 佐恵子 | 選択 | 2 | 臨床心理士、公認心理師 | | | |

授業の到達目標

我が国における障害児保育の歴史の変遷を土台として、これからの保育実践について自分なりの実践方法を模索する。大きな課題の一つである保護者への支援に関しては、ペアレントトレーニングやSST等の心理教育でのファシリテーターの働きも学ぶ。さらに、様々な障害を理解し支援する上で必要な個別支援計画が作成できる保育者をめざす。このクラスは、KAISEIパーソナリティK(思いやり)とI(知性)を考える。

授業の概要

障害児保育は特別支援教育へとつながり、インクルーシブシステムの具現化が求められる。そこで、本授業では障害の理解に留まらず、個人がきちんと障害教育観を持つことで、教育現場で通用する基本的な保育技術を学ぶ。また、事例を活用して「この子にどんな支援が有効なのか、必要なのか」という教育的視点から討論する。

授業計画

1. 障害の理解と現在までの障害保育の概要
2. 肢体不自由児・難聴幼児通園施設の実態
3. 知的障害がある子どもの理解と支援
4. 学校園における発達障害がある子どもへの支援 1
5. 学校園における発達障害がある子どもへの支援 2
6. 様々な自閉症スペクトラムの理解と指導
7. 障害がある子どもの受け入れポイント
8. 障害がある子どもの受け入れに関する施設・設備の工夫と課題
9. 障害がある子どもの面談法
10. 障害がある子どもの行動観察法
11. 関係諸機関 専門医の診断法
12. 関係諸機関 保健センター、福祉関係機関
13. 家庭への子育て支援 幼児期の障害児への支援
14. 家庭への支援 健常者の保護者への啓発
15. 就学に向けての保護者との連携支援

授業の方法

講義を主とするが、双方向の討議も取り入れて受講者が主体的に参加できる形式も採り入れる。

準備学修

日常生活の一コマを、一つの考え方にこだわらずに複数の視点で考えてみる姿勢を望む

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

若井淳二著『障害児保育テキスト』（教育出版）

参考図書

授業中に紹介する。

留意事項

国の障がい者施策および事業に関心を持つ

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

| | | | | | | |
|--------------|-----|----|--------------|------|-----|------|
| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 保育実習指導A | | | 17811 | Ⅲ | 春／秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 科目と関係のある実務経験 | | | |
| 石畠 多恵／渋谷 美智 | 選択 | 2 | 公立保育所保育士 | | | |

〈児童福祉施設実習〉

授業の到達目標

保育実習の意義・目的および実習の内容をを理解し、自らの課題を明確化する。なお実習を円滑に進めていくため実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解し、実習がより効果的に行えるようにする。また、子どもの人権と最善の利益、プライバシーなどの守秘義務について理解する。事後指導においては、自己評価を行い課題や学習目標を明確にする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）、E（倫理）を考える。

授業の概要

実習の意義・目的・方法を理解し、実習内容・心構え・実習記録の意義と記録の仕方について学ぶ。なお実習を受けるにあたり各教科の講義で得た知識をもとに「児童福祉施設とは」を理解し、機能や保育士の役割、子どもの理解、日々の子どもの生活や遊びの援助の仕方について習得し、保育現場での実践に結びつけられるようにする。事後指導では、自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にしていく。

授業計画

1. 実習の意義、目的、概要について理解する。
2. 各施設の役割と機能を理解する。①
3. 各施設の役割と機能を理解する。②
4. 施設実習の準備と心構えを理解する。①
5. 施設実習の準備と心構えを理解する。②
6. 実習における観察・記録・評価の仕方を理解する。
7. 実習記録の書き方を理解する。実践及び実習に関する諸手続
8. 実習についての心構え、留意事項などの確認(実習事後の御礼状の書き方なども含む)
9. 事後指導における実習の総括と自己評価、課題の明確化。

授業の方法

講義・演習・実践により進める。

準備学修

webで参照すること。

実習施設についての概要を事前に調べる。手あそびを数多く知るようになり、絵本の読み聞かせの練習をしたりする。

課題・評価方法

授業出席状況・諸提出物・実習記録などにより評価する。定期試験は実施しない。

欠席について

欠席は、1回につき5点減点とする。

テキスト

必要資料については随時プリントを配布する。

参考図書

あそびうた大全集 永岡書店
手あそび百科 ひかりのくに
実習の記録と指導案 ひかりのくに
3. 4. 5歳児が夢中になる実践! 造形遊び ナツメ社

留意事項

実習を受けるまでに乳幼児の発達過程をしっかり把握し、保育実践の知識や技術をできるだけ多く身につけておく。

教員連絡先

ishihata@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

〈保育所実習〉

授業の到達目標

保育所実習の意義・目的および実習の内容をを理解し、自らの課題を明確化する。なお保育所実習を円滑に進めていくため実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解し、実習がより効果的に行えるようにする。また、子どもの人権と最善の利益、プライバシーなどの守秘義務について理解する。事後指導においては、「保育実習Ⅱ」に向けての課題や学習目標を明確にする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）、E（倫理）を考える。

授業の概要

保育所実習の意義・目的・方法を理解し、実習内容・心構え・実習記録の意義と記録の仕方について学ぶ。なお初めての保育所実習を受けるにあたり各教科の講義で得た知識をもとに「保育所とは」を理解し、保育所の機能や保育士の役割、子どもの理解、日々の子どもの生活や遊びの援助の仕方について習得し、保育現場での実践に結びつけられるようにする。事後指導では、「保育実習Ⅰ」の総括と自己評価を行い、「保育実習Ⅱ」に向けての新たな課題や学習目標を明確にし、より「保育実習Ⅱ」が効果的に行えるようにする。

授業計画

1. 保育所実習の意義・目的・概要について理解する
2. 保育所の役割と機能を理解する
3. 発達過程の理解を深める
4. 保育の計画について再認識し、理解を深める 実習指導案の書き方を知る
5. 保育内容の実践
6. 実習生個人票の作成およびオリエンテーションの受け方、事務手続きについて理解する
7. 実習記録の書き方を知る
8. 実習に際しての心構え、留意事項(事後の実習園に対するお礼状の書き方等含む)
9. 事後指導における実習の総括と自己評価・課題の明確化

授業の方法

講義・演習・実践により進める。

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法

授業出席状況・諸提出物・実習記録などにより評価する。定期試験は実施しない。

欠席について

欠席は、1回につき5点減点とする。

テキスト

保育実習指導の手引き（海星版）
必要資料については随時プリントを配布する。

参考図書

あそびうた大全集 永岡書店
手あそび百科 ひかりのくに
実習の記録と指導案 ひかりのくに
3. 4. 5歳児が夢中になる実践! 造形遊び ナツメ社

留意事項

実習を受けるまでに乳幼児の発達過程をしっかり把握し、保育実践の知識や技術をできるだけ多く身につけておく(絵本の読み聞かせ・制作・手あそび・歌など)

教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

| | | | | | | |
|--------------|-----|----|--------------|------|-----|------|
| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 保育実習指導B | | | 17820 | IV | 春 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 科目と関係のある実務経験 | | | |
| 渋谷 美智 | 選択 | 1 | 公立保育所保育士 | | | |

授業の到達目標

保育実習ⅠAを通して得た自己課題をもとに、保育技術面での向上を旨として学習し、十分とは言えないが実践能力を養い保育実習Ⅱに取りくむことができたものとする。KAISEI パーソナリティのK（思いやり）とI（知性）、E（奉仕）を考え、A（自律）を養う。

授業の概要

保育実習ⅠAで修得した知識をもとに、保育実習Ⅱでは現場での保育実践を念頭に置き、指導案や保育実践に取りくめるように、必要な知識や技術を学ぶ。

授業計画

1. 保育実習Ⅱの意義・目的を理解する
2. 保育実習Ⅱに関する事務手続き、書類等の配布と指導
3. 保育実習に向けての遊びの指導①
4. 保育実習に向けての遊びの指導②
5. 保育実習に向けての遊びの指導③
6. 実習指導案の作成 実習指導案に基づいた保育内容の確認、実践①
7. 実習指導案の作成 実習指導案に基づいた保育内容の確認、実践②
8. 個人票の書き方について
9. 実習の心構え、留意事項(事後の実習園に対するお礼状の書き方等含む)
10. 事後指導における実習の総括と自己評価 課題の明確化

授業の方法

講義・演習・実践により進める。

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法

授業出席状況・諸提出物・実習記録などにより評価する。定期試験は実施しない。

欠席について

欠席1回につき5点減点。

テキスト

保育実習指導の手引き（海星版）
必要資料については随時プリントを配布する。
3, 4, 5歳児が夢中になる実践！造形遊び 平田智久監修 ナツメ社
あそびうた大全集 永岡書店

参考図書

手あそび百科 ひかりのくに
実習の記録と指導案 ひかりのくに

留意事項

実習を受けるまでに乳幼児に関する保育実践の知識や技術をできるだけ多く身につけておく(絵本の読み聞かせ・製作・手あそび・歌など)

教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

| | | | | | | |
|--------------|-----|----|--------------|------|-----|------|
| 関連科目〈資格関連科目〉 | クラス | | 科目コード | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 神経・生理心理学 | | | 17827 | II | 秋 | |
| 担当者名 | 区分 | 単位 | 科目と関係のある実務経験 | | | |
| 古谷 真樹 | 選択 | 2 | | | | |

授業の到達目標

中枢神経や自律神経の構造と機能について理解し、注意や記憶、感情等の生理学的反応の機序、夢などのトピックから、心と脳の関係および高次脳機能障害の概要について説明できるようになる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

神経・生理心理学は複雑で多様な人間の心理とそれに伴う行動について、脳神経をはじめ生理指標から考察する学問である。中枢神経や自律神経の構造や機能といった基礎的な内容から医療や福祉、教育現場における応用まで幅広く学ぶ。

授業計画

1. 神経心理学・生理心理学とは
2. 中枢神経系(脳神経系の構造及び機能)
3. ニューロンと活動電位
4. 認知・注意と高次脳機能障害
5. 言語と高次脳機能障害
6. 記憶と高次脳機能障害
7. 自律神経系と情動
8. 皮膚電気活動と筋電図
9. 神経伝達物質
10. ホルモン
11. 発達と加齢
12. 睡眠とサーカディアンリズム
13. リハビリテーション
14. テストバッテリー
15. まとめと試験

授業の方法

毎回、授業始めに復習の小テストを行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

小テスト60%、定期試験40%

欠席について

1回欠席で5点減点（小テスト含む）、5回以上の欠席で不合格とする。

テキスト

適宜紹介する。

教員連絡先

m-furu@people.kobe-u.ac.jp